

葉っぱの不思議

この実践は、「サクラの樹の花から葉へと興味を広げ、さらに他の植物の葉と出合った子どもは、葉の不思議や面白さを感じながら、自分の発見や気づきを新聞にした。作った新聞を皆で共有することを通して、子どもたちに『科学する心』が育まれた事例」です。一人一人の表現が大事にされ、友達や保育者に認められたり、共感されたりしたことで、子どもは、もっとよく観てみよう、違う種類を探してみようと興味を深めています。また、子どもの発想から生まれた新聞作りは、他の葉との比較、表裏の色の違いの気づきなどの探究につながっています。

学校法人水谷学園 北陵認定こども園 北陵幼稚園・北陵保育園

5歳児

事例 1. ソラマメの葉っぱの不思議

- ・4月、子どもたちの興味は、サクラの樹から桜餅作りへ、さらに葉っぱへとつながっていった。5月中旬に、Aさんが、「先生…ソラマメが下向いたよ！採れるよ！」と、大声で言う。

- ・園舎の中の畑にソラマメがたわわになっている。空を向いている豆、横を向いている豆、下を向いている豆ができています。

Bさん：「頭が重たくなって…早く採ってって叫んでいるね。ウフフ」

Cさん：「そうだわ、きっと重たくて大変だわ…さー採ってあげますよ…」

Dさん：「面白いね。僕たち優しいってことだね…軽くしてあげてるから…」

Eさん：「先生…この豆の葉っぱ…ヌルヌルしてるよ…」

Fさん：「本当だ！ヌルヌルしてる…なぜ？」

保育者：「アッ本当、ヌルヌルしているね…」（少し分厚い感じから、ヌルヌルと表現したのではないかと思う）

- ・Gさんが、「サクラの葉っぱと比べてみたい」と言い出す。すぐにサクラの木に向かう。

サクラの葉と比べる。Mさん、「サラサラとヌルヌルだ！」

Aさん：「豆の葉っぱがプカプカ…サクラの葉っぱはサラサラ…葉っぱってみんな違って面白い！」

Hさん：「サクラは筋がいっぱいあるよ」

Iさん：「みんな違う葉っぱだよ…葉っぱって面白いね」と、子どもたちは園庭の様々な葉っぱを集め出す。

- ・そして、子どもたちは、「見つけたことを書くよ！」と言って、「葉っぱしんぶん」を作り始めた。



事例 2. 葉っぱしんぶん

< Aさんの新聞 >

プラタナス、サクラ、ソラマメ、
ドングリ、クローバー

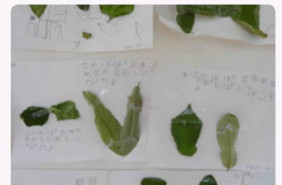
- ・「表と裏の違いを教えてあげるよ」と5種類の葉っぱを表裏に貼り、色の違い、触り心地の違いを確かめて嬉しそうである。「葉っぱはどれも一緒じゃないね」とつぶやく。満足感いっぱい。



< Bさんの新聞 >

サクラの葉、ドングリの葉

- ・「サクラの葉っぱを合わせたらリボンになったよ」「ドングリの葉っぱを合わせたらVになったよ」「サクラの葉っぱとドングリの葉っぱを合わせて振ったらパタパタと聞こえたよ」と、とても嬉しそうにつぶやく。「かわいい新聞にするわ」



Cちゃんの葉っぱは、みんな違うのを見つけたね。えらいなー。

Dちゃんの葉っぱのHを作るところが面白かった。葉っぱで英語ができるなんて知らなかった。

Eちゃんの（葉っぱの）ゲーム面白いけど難しい…Eちゃん凄い！

互いの新聞を見合う姿



先生…シワシワしてきたけど…元気がないね。もっとシワシワになるかな？

Fちゃんの葉っぱが増えているよ。庭で見つけた…僕も見つけたよ！モミジでしょ…これは？

みんな葉っぱが違うね。木も違うね…プラタナスの木が一番大きいね…葉っぱはまだ赤ちゃんだけだ！

イチゴのヘタを貼ってる？ Gちゃんよく考えたね、びっくり！

【考察】

- ・ヌルヌル・サラサラ・プカプカなど、感覚・感性を発揮しての表現が、友達との共有や、葉っぱを観察したり探し出したりなど、興味をさらに広げることにつながっている。
- ・サクラの葉、ソラマメの葉、ドングリの葉などの葉っぱの違い、手触り、大きさ、色の違い、出る音など大人にとっては、当たり前にも思われていることに子どもたちは感動し、不思議に思い、これらを遊びに生かしていく力を発揮して、探究することへと展開した。これこそ、「科学する心」育ちであると思う。今まで新聞は、先生が書くものと思っていたと思うが、自分で作りたいという願いを実現した。書いている文字は鏡文字であったり文字の抜けもあったりだが、子ども自身がやり遂げたという満足感が、子どもを大きく成長させたと思う。